

クリニックレター 2015.11月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

ドクターG

「総合診療医ドクターG」というNHKの番組があります。

毎回、さまざまな分野のベテラン医師が、実際に経験した症例をドラマ仕立てで再現し、主に医師国家試験に合格して2-3年目の研修医3名が、それがどんな病気なのかを考えていく、という内容です。

もちろん、風邪、とか、胃炎、虫垂炎、というような簡単な病気が紹介される事はなく、毎回、珍しい病気、難しい病気であることがほとんどなのですが、フレッシュな知識を持った研修医が真の病名に迫っていくのを見ると、いつもながら「すごいな・・・」なんて思ってしまう。

この番組には、どういうわけか、神戸大を卒業した研修医が出演することが多く、先日、6年生のときに西本クリニックに学外研修に来てくれたAさんが出演していました。彼女は学生時代に東洋医学研究会の部長をしていたこともあって、私も良く知っている人なのですが、そんな彼女が、TVの画面の中で、しっかりと発言し、正しい診断をしているのを見て、とてもうれしかったです。その日に紹介された症例は、30歳くらいの女性がある日突然、40度以上の高熱と悪寒、下痢を発症したというものです。その女性が病院に駆け込んだところ、同じような症状の10歳くらいの男子と40才くらいの男性が受診していました。3人とも高熱と下痢を訴え、熱が高い割には脈拍数の増加が強くない（比較徐脈）ことが特徴です。女性と男児には面識はないのですが、男性と女性は時折、会社の近くにやってくる移動式のお弁当屋さんで顔を见かけると、というのがヒントでした。

3人の病気は・・・なんと「腸チフス」でした。腸チフスなんて、過去の病気と思われる方もおられると思いますが、外国（主に東南アジア）で感染したり、無症候性保菌者（チフス菌に感染しているが症状が出現せずに日常生活を送っているヒト）と知らずに接触することで、まれにおこることがあります。TVで紹介された症例も、実は、東京のインド料理店を感染源に10名のチフス患者が集団発症した、という事例に基づいたものでした。

もちろん腸チフスはそれほど頻りにみかける病気ではありませんが、インフルエンザ用の悪寒発熱に続いて、強い腹痛と下痢が発現するカンピロバクター感染症は、鶏肉の生食（鶏刺しやたたきなど）が原因の感染症で、当院でも1年に1-2例は発見される病気です。よく、「当店では新鮮な鶏肉を使っています」などと宣伝している焼き鳥さんがあつたりしますが、新鮮さとカンピロバクターとは全く関係がありません。かえてフレッシュな生肉のほうが（裏面へ）

危険とも言えるのです。また、鮎などの川魚の生食も、寄生虫感染症の原因になることがあり、注意が必要です。

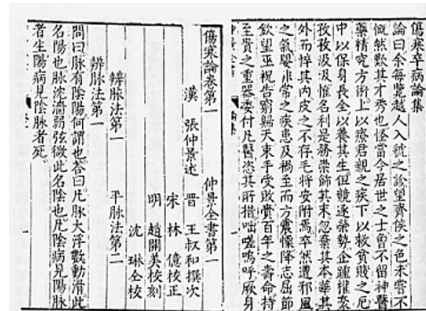
漢方の古典「傷寒論」と感染症

話は少し変わりますが、「漢方」とは文字通り、「漢(中国)から伝来した医学」という意味です。つまり、中国伝統医学が、今の漢方の背骨にあたるようなものと言えるでしょう。その中国伝統医学のなかで最も古い書物が、紀元前400年頃に書かれた「黄帝内経」(ヨウイダクイ)で、黄帝という王様と岐伯(キハク)という家臣との問答形式によって、自然と人間との関わり、病気の原因、診断方法、予防医学などについて詳細に述べられた中国最初の総合医学書です。(ちなみに、当院の法人名である岐黄会は、これに由来しています)

その後約半世紀以上たった西暦200年頃、後漢の時代に、張仲景(チウヂョウキョウ)という医師によって書かれた漢方史上最高の名著といわれるものが「傷寒雑病論」(シヨウカンザツヨウリン)です。この本の序文にこのような文章が書かれています。

「私の一族はもともと二百人以上いたのだが、建安元年(196年)以来、10年の間に、その3分の2にあたる人々が疫病にかかって死亡しており、そのうちの実に7割が傷寒病にかかって倒れたのである」と書かれています。

この「傷寒」とは、高熱、悪寒に始まり、さまざまな症状を呈しながら、最後には下痢が止らず死にいたる病ということで、一説には、腸チフスか、それにちかい、今でいうパンデミックウィルスによる感染症ではなかったかといわれています。点滴も抗生物質もなかった古代に、このような感染症と戦った歴史を踏まえて、今の私達の社会があるのだな、と、TVの画面の中のAさんの元気な顔を見ながら、あらためて思いました。



インフルエンザワクチン予防接種

10月15日より、インフルエンザワクチンの予防接種を始めました。

昨年までのワクチンは3価(抗体が3種類入っている)でしたが、今年は、4価(A型・B型に対する抗体がそれぞれ2種、計4種の抗体が含まれています)に変更になっています。

このため、ワクチンの価格が昨年に比べて上昇し、65歳以上で公的補助を受けられる方の自己負担金が1500円になりました。(公的補助を使われない方の価格は据え置きとしています)

11月後半になりますと、徐々にインフルエンザが流行りだすことも予想されますので、できれば、11月中には接種を済ませられることをお勧めします。

クリニックレターのバックナンバーをお読みになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。